

令和6年度環境学習リーダー養成講座 結果報告

1 概要

環境に係る様々な分野の専門家や実際に環境保全活動を実践している NPO 法人などから、環境学習に必要な基礎的な知識・学習指導の手法を学び、環境保全活動を地域に広める人材（環境学習リーダー）を育成するために実施した講座です。

Zoom によるリアルタイム配信及び講義動画の学習管理システム (LMS) によるオンデマンド配信の併用で実施しました。

2 日程、テーマ等

No.	日程	タイトル	内容	講師
1	10/9 (水) AM	神奈川県の大気・水環境の現状と課題について	私たちに身近な大気や水の環境について、環境基準や県が実施しているモニタリング調査などを紹介するとともに、調査結果を踏まえて県内の現状や課題をお伝えします。	神奈川県 環境科学センター 環境活動推進課 課長 池貝隆宏
2	10/9 (水) PM	激甚化する気候変動の影響と私たちのくらし ～緩和策と適応策～	激甚化する気候災害に備えて、気候変動の現状や将来予測を解説しつつ、これらに対する最近の世界の動きやこれに伴う国、自治体、民間企業、市民で今度さらに重要となると思われる気候変動対策（緩和策と適応策）についてお話しします。	環境省 関東地方環境事務所 環境対策課 地域適応推進専門官 川原博満氏
3	10/20 (日) AM	各自の行動にかかっています～脱炭素、循環型、自然再興を～	「勝負の2030年」と謳われている第6次環境基本計画が公表されました。ゼロカーボンアクション、サーキュラーエコノミー等、消費者の役割をわかりやすく解説します。トラブル急増のリチウムイオン電池は3分動画で情報提供します。	(非営) 持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 鬼沢良子氏
4	10/20 (日) PM	食品ロスの現状と課題・削減に向けた取組について	食品ロスは生産、製造、販売、消費等の各過程で発生し、その削減には事業者、県民がこの問題を自分事として捉え、行動することが必要です。そこで、食品ロスの現状と課題、県の施策のほか、削減に向けた具体的な取組等について講義します。	神奈川県 資源循環推進課 副技幹 河野郷史
5	10/31 (木) AM	AI と IoT を用いた海洋プラスチックごみモニタリング	海洋プラスチック問題の解決の第一歩は、海洋や海岸等におけるプラスチックごみの種類や現存量を把握することです。IoT を用いた観測や、AI を用いた定量化に向けた取り組みについて紹介します。	(国研) 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 上席研究員 松岡大祐氏
6	10/31 (木) PM	「SDGs の教育」から求められる環境学習リーダーとは？	国連 SDGs の達成年度まで6年を切ったが、目標に含まれる多くの環境問題が解決できていない。解決に向けて環境学習が「変容の教育 (transformative education)」であるために、どのような学習リーダーが求められているのか本講座で考える。	東海大学 教養学部 人間環境学科 教授 岩本泰氏

7	11/9 (土) AM	市民活動について	ボランティア活動をはじめとする市民の公益的な活動を支える組織の成り立ちや運営方法を実例とともに解説し、今後について考えます。	(一社) ソーシャルコーディネートかながわ 代表理事 手塚明美氏
8	11/9 (土) PM①	環境学習の進め方 ～環境学習講座の講師として～	環境学習の講師として、どのように講座を進めるかを解説します。進め方として、目的(主題の設定)、講座手順、進め方の注意点、取りまとめを行います。その内容においては、様々な講座事例の紹介、受講者への対応、アンケートなどによる成果の確認などをパワーポイント等により行い、環境学習の知識を習得していただきます。	(非営) 神奈川県環境学習リーダー会 代表理事 吉岡嗣二郎氏
8	11/9 (土) PM②	地球温暖化と未来の地球 ～私たちにできることを考えよう～	地球温暖化の原因としくみ、その対策として重要な省エネについて解説し、シミュレーション映像により、このままいくと未来の地球がどうなるか知識を習得します。また、地球温暖化クイズにより理解を深めていきます。	(非営) 神奈川県環境学習リーダー会 理事、エネルギー部会 部会長 鈴木 勝男氏
9	11/22 (金) AM	生物多様性の保全と里山の自然	生物多様性保全の仕組みや制度の概要をお話しし、特に里地里山の自然について、歴史、現代的な課題、具体的な保全の取り組みについてお話しします。	東京農業大学 農学部 生物資源開発学科 教授 三井裕樹氏
10	11/22 (金) PM①	貴金属で水素を使用した発電によりカーボンニュートラルへ貢献	水素を原料とした発電方法に燃料電池があります。その燃料電池の構成素材として貴金属は重要な役割を果たしています。燃料電池の仕組みや燃料電池を用いたカーボンニュートラルの取り組みをお話しします。	田中貴金属工業株式会社 FC触媒開発センター センター長 松谷 耕一氏
10	11/22 (金) PM②	国連開発計画との共同プログラム 「SDG アカデミー」について	サーキュラーエコノミーを推進する人材育成プログラムをインドネシアの国連開発計画(UNDP)と実施し、ゴミ問題などの社会課題を抱える同国に対し、日本の包装容器に関わる技術やノウハウを共有した内容をご紹介します。	日本クロージャー株式会社 製品開発部 課長 中川征氏

### (1) リアルタイム配信

令和6年10月9日(水)、20日(日)、31日(木)、11月9日(土)、22日(金)の各日2回の講義を開催  
午前10時～12時、午後2時～4時

### (2) オンデマンド配信

令和6年10月21日(月)、29日(火)、11月12日(火)、19日(火)、12月3日(火)より配信開始  
令和7年1月13日(月)配信終了。

### 3 受講者数、修了者数

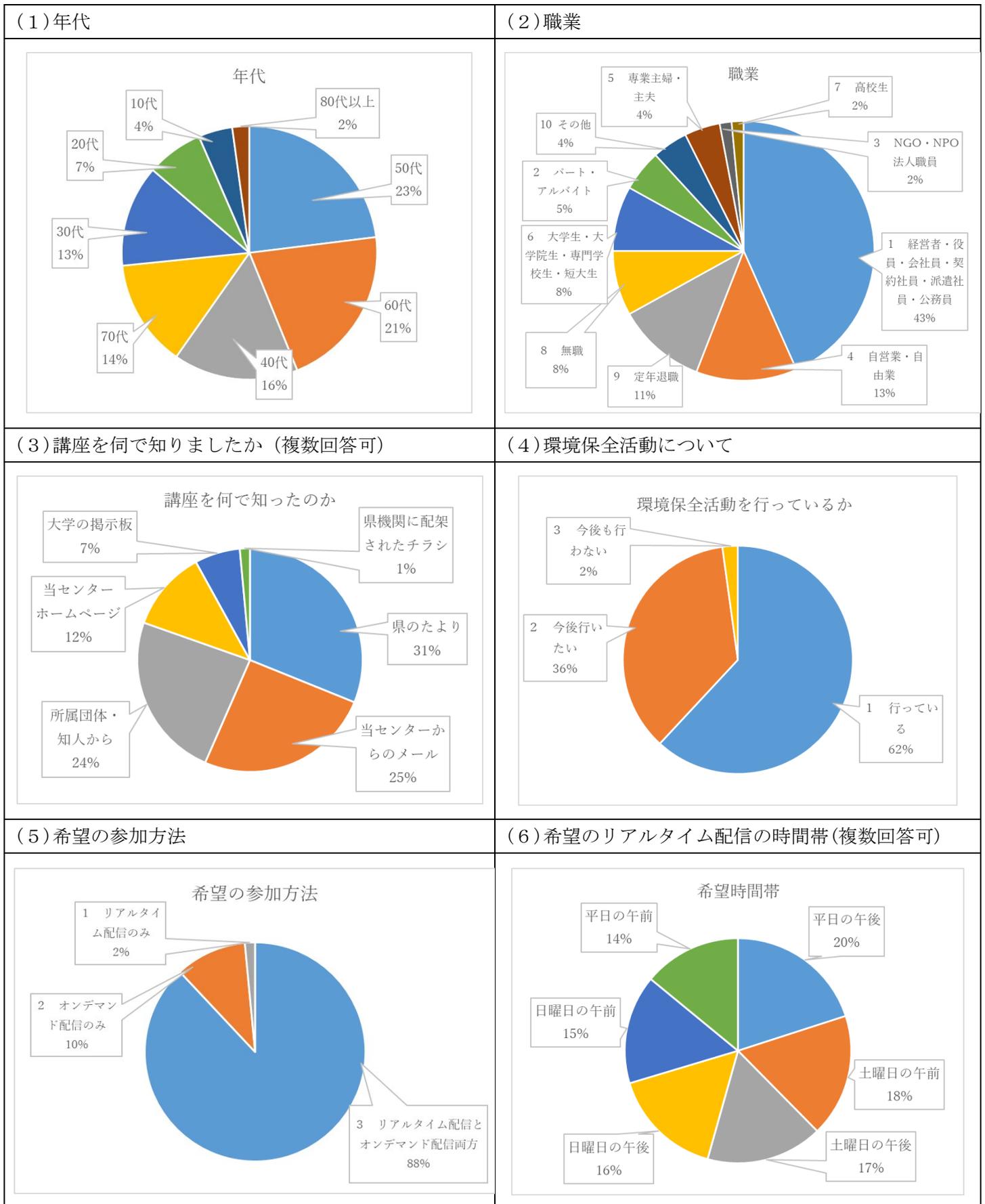
- ・リアルタイム配信受講者数 86名 (/138名中)
- ・オンデマンド配信受講者数 80名 (/138名中)
- ・全受講者数 114名 (/138名中)
- ・修了者(8講座以上受講した受講者) 84名

⇒修了者の中で希望された方の指導者情報をホームページ上で公開しています。

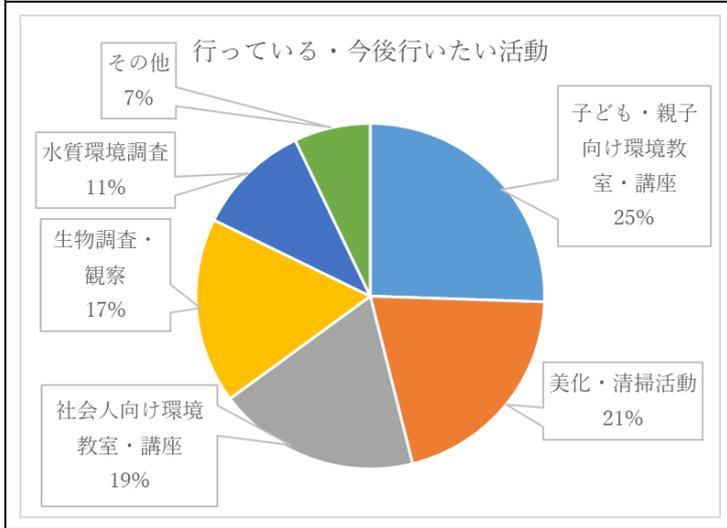
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/kankyougakushu/leader.html>

#### 4 アンケート結果

・「基本属性のアンケート」 146名（部分的未回答のものも含む）

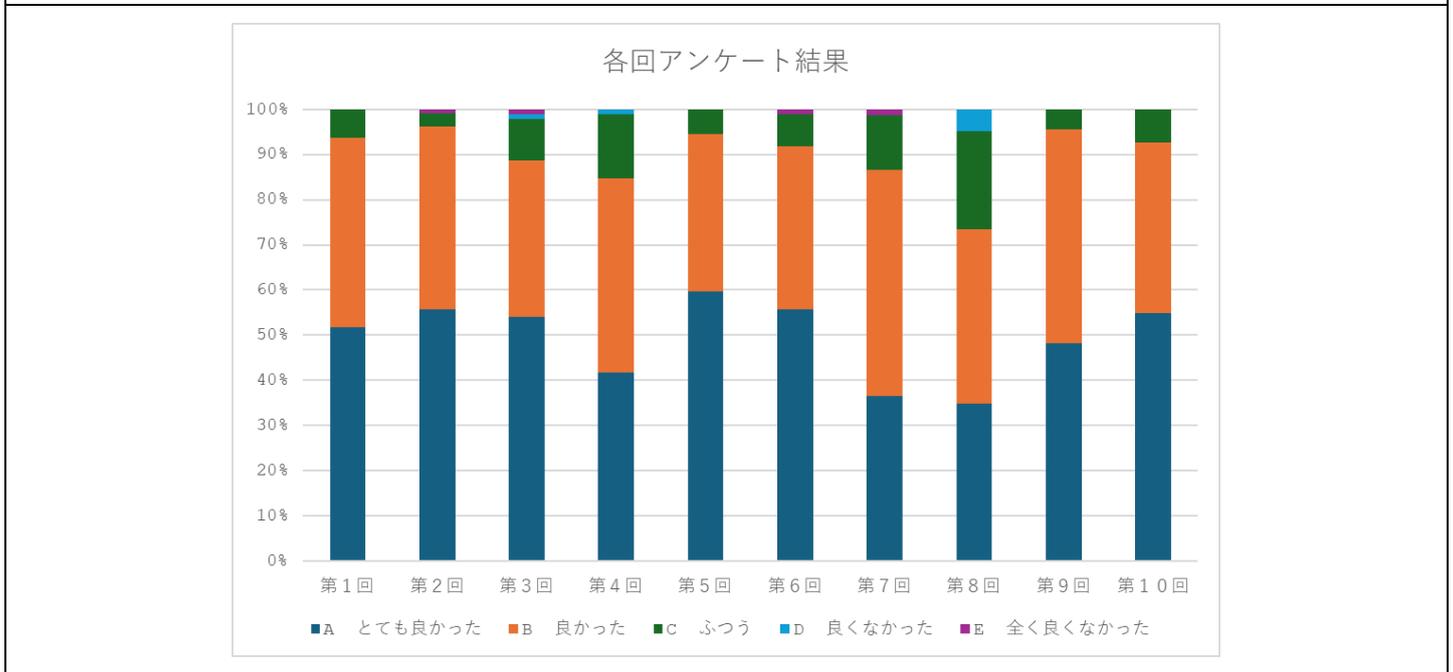


(7)行っている、行ってみたい活動(複数回答可)



・「講座ごとのアンケート」 回答数 928(延べ数)

講座の内容はいかがでしたか？ (各回)



以上